

問題【国語】

次の各文のカタカナの部分に漢字に直しましょう。

- (1) サユウ対称な図形
- (2) 駅までの道をタズネル
- (3) キョウリュウ図鑑を読む
- (4) ケンチク家になる

豆知識 雑学コラム

「ナ」「口」「工」由来は？

今日は漢字の成り立ちについてみていきましょう。「右」と「左」の左上の「ナ」のような部分は「手」を表しています。一方で左下の「口」や「工」にはどのような由来があるのでしょうか。考えていきましょう。

みなさんは小さいお子さんに右を説明するとき、どう説明しますか。おそらく、右利きのお子さんであれば「箸を持つ方の手」のように右手の役割から説明をすると思います。古代中国の人も漢字の「右」と「左」の漢字を作るときにそれぞれの手の役割を参考にしました。神様にお祈りをする儀式が行われていて、その時、右手に神様へのお祈りの書かれた器を持っていたため、その器の形から「口」という字が「右」という字に入ることとなりました。

一方、左手には「工」のような形の道具を持っていたため「左」という字ができました。また、この古代中国の神様にお祈りする儀式では、その年の天候など神様にいろいろなことを「尋ね」ました。「尋」はこの時の様子をもとにできた字です。「尋」の真ん中の左に「工」、右に「口」がくるのは偶然ではなく、前述の「右」と「左」の字の成り立ちのように、お祈りして尋ねる人の手元の様子からこういう形になりました。何気なく使っている「尋」という字ですが、こんな成り立ちがあるんですね。

さて、「恐」や「築」も左に「工」という字がきています。これも左手の役割がもとでこのような形になった漢字です。「恐」は昔、地震や洪水といった「恐」ろしい出来事を神様の怒りだと考えていました。そして、こうした災害を終わらせるためにお祈りするとき左手に「工」のような形の道具を持っていたため、「恐」の左に「工」という字が入ったと言われています。また「築」の場合は大工さんが左手に「のみ」を持っていたことで、「のみ」の形から左に「工」、右手に金づちを持っていたことで、金づちの形から右に「凡」という字が入りました。こうやって聞くと「凡」が金づちのように見えてきませんか？

左に「工」が入っている漢字を見たら、左手に道具を持って何かをしている様子をイメージしてみると、新しい発見があるかもしれませんね。

【解答】

斎軒 (4) 蜚雪 (3) 図録 (2) 工事 (1)